

新潟労福協

No12 2013年1月16日
 一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会
 〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2
 Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891
 E-mail: ni-rfk@bz04.plala.or.jp
 URL: http://www.niigataken-rofukukyo.com/
 発行責任者 山田太郎

2013年 明けましておめでとうございます

～連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会をめざそう～



監事	監事	監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副理事長	副理事長	理事長		
蒲原	宝金	小島	田村	伊豆野	岡田	土田	牧野	小谷野	渡辺	諸橋	河内	米山	阿部	佐藤	田村	山阪	齋藤	山田	田才	江花	齋藤
隆	満	晋	稔	尚	雅彦	啓介	茂夫	いく	章衛	孝雄	浩一	哲也	幸夫	光雄	稔	光男	悦男	太郎	栄敏	和郎	敏明
総合生協	労働金庫	連合新潟	高齢協	労信協	総合生協	労働金庫	連合新潟	情報労連	運輸労連	交通労連	J P 労組	連合新潟	電機連合	J A M 新潟	新教組	U A セン	自治労	労福協	総合生協	労働金庫	連合新潟

2013年
今年もよろしく
お願いします。

一般社団法人新潟県労働者福祉協議会

2013年新春労働団体・友誼団体 名刺交換会（363名参加）



2013年1月7日（月）ANAクラウンプラザホテルにて、新潟県労福協主催の新春労働団体・友誼団体名刺交換会が開催されました。

開会にあたり主催者を代表して齋藤理事長が挨拶。「昨年、最後に残った佐渡地区労福協が設立され、県内10カ所の地区労福協を拠点に労働者の福祉向上をめざした活動を展開していくこと」、「昨年6月から県の委託を受けた寄り添い型支援のパーソナル・サポート・モデル事業（PS）は、11月に上越地域にも拠点を追加し、昨年末で総相談件数4,278名、継続支援者369名、58名の方が職に就かれた。

PS事業のニーズは高いものがあるが、政権交代により4月以降の事業継続に不安もあり労働者福祉運動が逆戻りすることのないよう取り組みたい」と表明されました。



来賓として迎えた泉田新潟県知事からは、齋藤理事長挨拶に関連して、「労働者福祉の向上に寄与されていることに感謝申し上げたい。不安を抱かなくとも済むよう県として労福協運動をシッカリ支えていきたい」、「一人ひとりが豊かな生活を送れる環境、安心して活動ができる環境をつくっていきたい」など、働く者の幸せを祈念して祝辞が述べられました。

続いて、篠田新潟市長からは、「PS事業の相談件数が多いことは、それだけニーズが高い事業と評価したい。」、「福祉関係の職場は必要とされる人員が不足している現状にあり、ライフインフラを充実していきたい」、「政権交代したが、雇用と景気が伸びることに注目したい」、「成長戦略を地方から発信し安心・安全を実感できる社会をめざしたい」と祝辞が述べられました。

その後、新年の初仕事として、泉田県知事、篠田新潟市長、齋藤理事長、江花副理事長（新潟労金理事長）、田才副理事長（新潟総合生協理事長）による恒例の鏡開きが行われ、田才副理事長の乾杯で新春名刺交換会がスタートしました。



しばし歓談後のアトラクションでは、不況を吹き飛ばし、この1年を元気にスタートできるよう新潟のおやじバンド（熱帯エレキ楽団）による熱演が行われました。



新潟県労福協は、雇用環境が厳しい中、働く人たちの環境とセーフティネットの充実が喫緊の課題との認識から新潟県や新潟市に対し労働者福祉に関する要請を行っています。

今後、さらに行政機関との連携を強化し、具体的な事業展開、政策実現に結びつけていくことが今年1年の課題となります。

限られた時間の中ではありましたが、各団体、参加者の懇親を深め、最後は、江花副理事長の「一本締め」により、2013年新春労働団体・友誼団体名刺交換会は大盛況のうちに閉会となりました。

ろうきんのキャッシュカードは、
（ろうきん）はもちろん、
【他の金融機関での】すべて
ATMお引出し手数料

いつでも
平日・土曜・日曜・祝日、
利用時間に関係なく

どこでも
ろうきん・銀行・ゆうちょ銀行・
信金・信協・セブン銀行・
イオン銀行・JIA等

無料

60th
実質

はたらく人の、
生活応援バンク
新潟県労働金庫
新潟労働者連合会
0120-191-580
（平日9:00～17:00）

総合生協の
夕食宅配 栄養バランスに配慮した夕食を
 日替わりメニューで毎日（月～金）
 自宅へお届けします。

- お弁当コース
1食あたり540円
- おかずコース
1食あたり580円

お問合わせ・お申し込みはコールセンターまで
0120-025-261

中央労福協主催 第1回LSC実務者・相談員研修会

- ◆開催日 2012年10月29日(月)～30日(火)
- ◆参加者 東日本地区LSC相談員 約30人

昨年、10月29日、中央労福協主催のLSC相談員スキルアップ研修会が東京で開催され、東日本地区からLSC相談業務を行っているコーディネーター30名(新潟LSCから4名)が参加しました。

初日は、産業カウンセラーから「相談・ヒアリングテクニックの基本態度」についての講習を受け、その後、グループに分かれ事例に基づきロープレ方式の相談技法を学びました。



2日目は、司法書士から「生活保護」制度と申請手続等、弁護士から「行政等の支援システム」についての講演を受けました。

活動報告では、新潟県労福協と北海道労福協から報告があり、その後の経験交流では、特にメンタル面での相談者の対応に苦慮されている事例等の意見交換を行いました。まとめとして相談者に信頼されるLSC事業をめざし、コーディネーターのスキルアップをはかることを確認し研修会を終了しました。



新潟県パーソナル・サポートセンター 上越サテライト開所式・事業連絡会

昨年6月から新潟県の委託を受け、様々な問題を抱える方に寄り添い、個別かつ専門的な立場から相談支援を行う「パーソナル・サポート・モデル事業(P S)」を新潟市及び長岡市の2カ所にセンターを開設し実施してきました。

スタート当初から予想を大きく上回る相談、支援要請が寄せられ、この事業に対する大きな県民ニーズがあることが明らかになると同時に、関係者からは上越地域での拠点整備を求める声も出されていました。

こうした状況をふまえ、11月12日から上越地域にPS事業の活動拠点を拡大し、「パーソナル・サポートセンター上越サテライト」を設置し事業開始となりました。これまでの活動では、相談内容が多



岐にわたり相談者の抱える課題も深刻な事案も多く、行政をはじめサポートをフォロー、リファーするための専門家・団体・機関の関係者の協力が不可欠な事業になっていることから、11月14日に「上越サテライト」の開所式に合わせて、実施地域における各機関・団体、NPO、市民活動団体による「上越地域事業連絡会」を開催しました。

各団体間の連携を強化し、上越地域の「つながりと居場所のある地域社会」づくりを目指し上越サテライトのPS事業がスタートしました。

勤労者の暮らしをサポート 育成会

(正式名称)

「勤労者とその家族の暮らしに役立つ活動を支援・育成する会」

- 育成会は新潟労金に加入している団体会員(県内約2400会員)によって構成されています。
- 育成会には労金本店所在地で活動する25の地区育成会があり、それぞれの地域で勤労者福祉の前進に関する諸活動を行っています。
- 育成会役員は各店舗ごとに設置された労金常任推進機構から選出されています。

夢咲Clubの案内



夢咲Clubは労金に加入していない勤労者の方が、労金を利用する際に加入いただくメンバーズクラブです。預金、給与振込、公共料金自動振替をはじめ、住宅ローン、マイカーローン、教育ローンなど、各種ローンのご利用ができます。

ご加入資格 県内に居住または勤務する勤労者の方。
ご入会 (年会費はかかりません)
入会時に500円(加入金)が必要となります。

労金関係業務(育成会・夢咲Club)運営事務局 勤労福祉会館内

連絡先 Tel 025(281)1188

E-mail: spp66tw9@samba.ocn.ne.jp

講演会&シンポジウム 生き心地のよい地域社会をめざしてin見附

2012年11月18日、見附市保健福祉センターにおいて県労協主催のシンポジウム『生き心地のよい地域社会をめざしてin見附』が市民等230名が参加する中で開催されました。昨年に引き続き、新潟県地域



自殺対策緊急強化事業を県から受託して実施されたもので、見附市やながおかLSCをはじめ見附市内で活動する市民団体・NPOが中心となって準備を進めてきました。

第1部の講演会では、自殺対策のエキスパートであるNPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」代表の清水康之氏を講師に迎え、「誰も自殺に追い込まれることのない社会へ」の演題で講演をいただきました。



第2部のシンポジウムは、日本海聖高校ボランティア「フレンドスペース」・土田秀氏をコーディネーターに、心療内科精神科医師・高橋邦明氏から松之山プロジェクトの自殺対策と効果、見附市健康福祉課保健師・更科いづみ氏から見附市の自殺の現状と対策、長岡パーソナルサポートセンター・金子博氏から相談事例と対応等、それぞれシンポジストから報告がされました。その後、会場も含めた意見交換の後、まとめとして清水代表から自殺に対応できる地域のネットワークの構築がセーフティネットづくりにつながるというコメントがされました。



このシンポジウムを契機に、生き心地のよい住みやすい地域社会づくりに向け、実行委員会につながったネットワークをさらに発展させ、一人ひとり何ができるか、何をしなければならないか、一緒に考えていく機会になればと期待します。

第2回新潟地域PS（パーソナル・サポート） 事業連絡会を開催

内閣府の第3次モデル事業として、6月4日にスタートした新潟パーソナル・サポートセンターは、10月31日に第2回の実業連絡会を開催しました。

この事業連絡会には、新潟県（委託者）をはじめ福祉行政機関及びこれまで事業連携してきた専門的立場の団体、NPO・市民活動団体など88名が参加する中で開催されました。

今日の経済、社会環境の変化を背景に様々な分野において、社会的排除が一層深刻化しています。貧困や格差が拡大し、無縁社会といわれるほど人々は孤立し分断されています。職場や地域、家庭でのつながりが薄れ、一度社会との接点絶たれてしまうと社会参加への意欲や生きる気力すら奪われてしまう状況に追い込まれます。



事業連絡会では、齋藤理事長挨拶の後、5ヵ月間の



活動報告として、「PS事業の現状と相談内容の特徴について」、蛭原チーフサポーターから報告があり、引き続き多くの相談事例の中から3点に絞り、それぞれ担当したサポーターからパワーポイントを活用した支援策についての説明と報告がされました。参加された団体の皆さんからも、個別具体的な支援のあり方について適切なアドバイスをいただき、改めてタテ組織・ヨコ組織の長所を生かし織り成す新たなセーフティネットづくりとなる事業連絡会となりました。

活動報告として、

はたらく人・県民の お役に立つ活動を行います

- NPO助成事業 累計189団体へ9048万円
- 福祉団体助成事業 累計235団体へ1400万円
- 奨学金貸与事業 母子・父子家庭で学資支弁が困難な学生への奨学金貸与
- 文化講演会等開催 累計88回開催 約54000名が参加

このほかの事業も積極的に展開しています
(財) 新潟県勤労者福祉厚生財団
TEL 025-288-5273

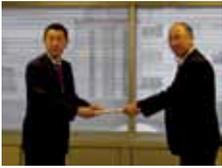
労働金庫から生活資金や住宅資金を借り入れる際の保証人となる
勤労者のための信用保証機関です。

【保証引受の実績】（平成24年12月末現在）

保証引受の内容	保証引受残高（千円）
無担保ローン	19,762,653
住宅ローン	114,498,326
合計	134,260,979

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地18
財団法人 **新潟県勤労者信用基金協会**

平成25年度予算編成に向けた政策提言 篠田新潟市長へ要請書提出



2013年度の新潟市予算編成に勤労者の生活向上につながる政策提言を行うための要請書が昨年、12月18日に山田専務理事から篠田市長に手渡されました。要請内容が6分野にわたることから、次年度以降の事業方針が不明確なパーソナル・サポート事業（P S）の継続に向けた支援と自殺防止、多重債務防止対策としての冊子「マネートラブルにかつ！」の全戸配布への協力に関する項目を中心に意見交換がされました。

篠田市長からは、P S事業について、これだけ多くの相談者を抱え事業が中断することにはならないと考えるので、今後、各方面から情報を取り寄せ新潟市として検討していきたいこと。また、「マネートラ」について、取り組みの趣旨は良いことなので、若年層対策としては、成人式における参加者への手渡し、一般家庭への配布については、どのような方法がよいのか担当と詰めてほしい。との回答がありました。

要請行動は、新潟地区労福協（田代会長・上田副会長）と協同の要請行動となりました。要請項目全体については、後日文書による回答がされることを確認し市長要請を終了し、その後、マネートラブル対策について担当者による協議を行いました。

要請行動は、新潟地区労福協（田代会長・上田副会長）と協同の要請行動となりました。要請項目全体については、後日文書による回答がされることを確認し市長要請を終了し、その後、マネートラブル対策について担当者による協議を行いました。

前進と友好関係に寄与することとなり労働団体の団結強化と発展、相互理解が今後さらに深まるものと確信しています。



東部ブロック労福協第47回定期総会開催



2012年11月22日、福島県「スパリゾートハワイアンズ」において、「労福協東部ブロック第47回定期総会」が開催されました。

総会は江花副会長の開会挨拶、遠藤会長の主催者挨拶と続き、活動報告、活動方針、予算、役員改選など各議案が承認されました。役員改選では、長年にわたり東部ブロック副会長として運動を指導されてきた新潟県労福協江花副理事長が副会長を退任されました。総会后、「フラガールと健康ダンス」をテーマとした記念講演があり、東日本大震災で大きな被害を受けた福島の地で被災者の皆さんを元気づける活動に尽力したフラガールたちの活動報告を受けるとともに“健康フラダンス”を体験しました。

韓国労働組合総連盟ソウル特別市地域本部との定期交流 第11次韓国労組へ交流団派遣 — 代表団5名が労働情勢を意見交換 —

日・韓交流協定に基づく定期交流が2012年10月18日～22日に実施されました。この交流は、1982年に旧新潟県労働総同盟が交流を開始し、その後、1992年の連合発足を契機として新潟県労働者福祉協議会が交流事業を引き継いだものです。

交流30周年の節目を迎えた第11次代表団は、齋藤連合新潟会長を団長とした5名の交流団を編成し、韓国労組幹部との意見交換、ソウル市内見学、南北を分断する軍事境界線、済州島など旧跡・名所を訪ね隣国の歴史と伝統を実感することができました。

韓国労組との幹部交流では、30年にわたる交流の意義や成果を確認し合い、両国の労働組合をとりまく社会情勢、労働環境等について広範な意見交換がされました。日本と韓国の政府間には、竹島問題

等、複雑な課題もありますが、私たちの民間交流・地方組織間の交流は両国間の懸案事項の解決、経済協力の



